

ある日。
僕は叔母に呼び出され、

その日の夜に
叔母の家にやってきました。



叔母さんは母さんの妹。
おっとりとした母さんと違って
ハツキリとモノを言うサバサバとした性格。

僕が小さい頃は
叔母さんは僕を我が子のように
可愛がってくれていた。

五年前に結婚したものの、
夫婦ともども、仕事が忙しく、
旦那さんは海外への出張が多い。

子供はいない。



そのせいか、旦那さんが留守の時は
僕はよく呼び出される。

気の強い叔母さんも
寂しい事があるのかな。

ただ、今晚はいつもと様子が
変わっていた。



こんばんはー
光二です。

あら、コウちゃん、
いらっしやい。
私はリビングに居るわよ。



うふふふ
今夜はコウちゃんか
来る日だから嬉しくて
お酒出しちゃった。

さあこつちに着て
一緒に飲みましょ

えうああ…
ううん。

あれ？

この酒って、叔父さんが
自分専用に隠してた
精力増強活力酒だったよな。

叔母さん、そんなこと知らずに
この酒を見つけちゃったのか。



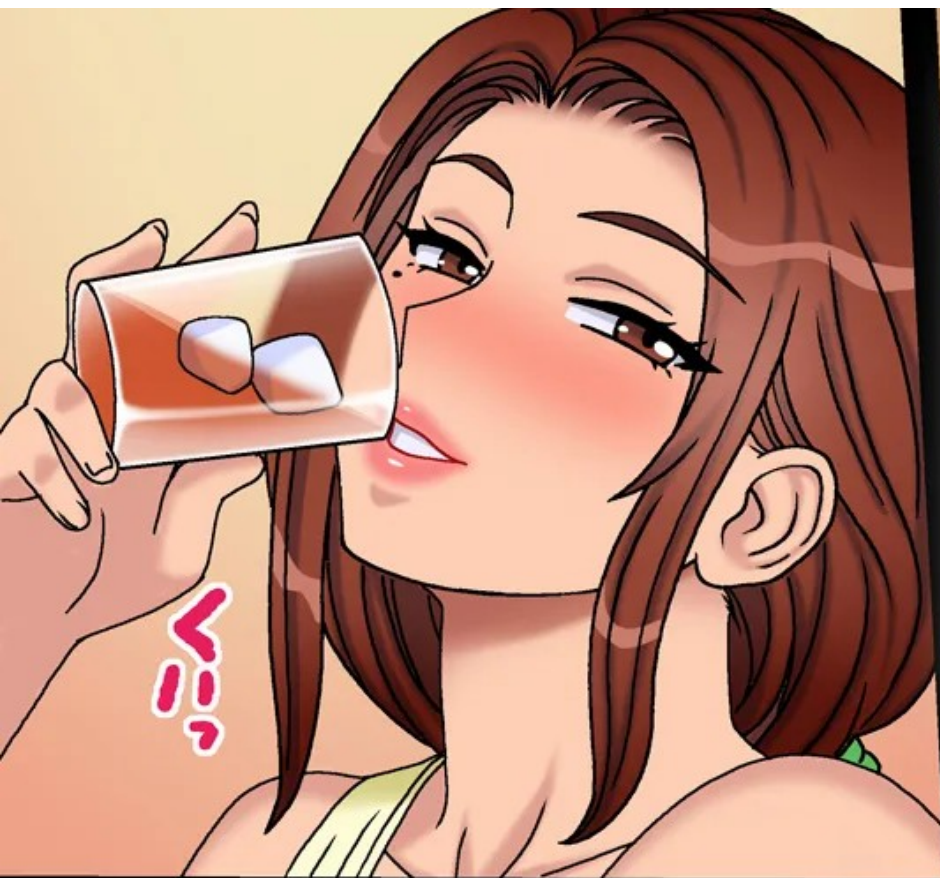
それにしても…
すごい恰好…！



叔母さんの室内着って
こんなにかわかったつけ？



もしかして、
あの活力酒って
本当に効いてるの？



叔母さんのエロい恰好
見てたら勃起しちゃった！



瑞希は口に含んでいた
酒を光一の口の中に
注ぎ込んでいった。

唐突のティープキスに
硬直する光一は
口移しされた酒を
そのまま飲み込んでしまう。





えっ……！
なにこれっ？

信じられないっ！
叔母さんが
僕のチンポを……！



ちゅぽっ

ちゅぽっ

くぱっ

ああ……でも、
僕もおかしくなってる。
やめてくれって言えないっ……

やめて欲しいって思えないっ……

ちゃほ

ちゃほ



叔母さんのフェラチオが
本気過ぎてヤバいっ

ちゅぽ

人妻になると旦那さんとの
セックスが多くなつて
テクニクがプロ以上になるって
本当だったんだ！

ちゅぽ

ちゅぽ

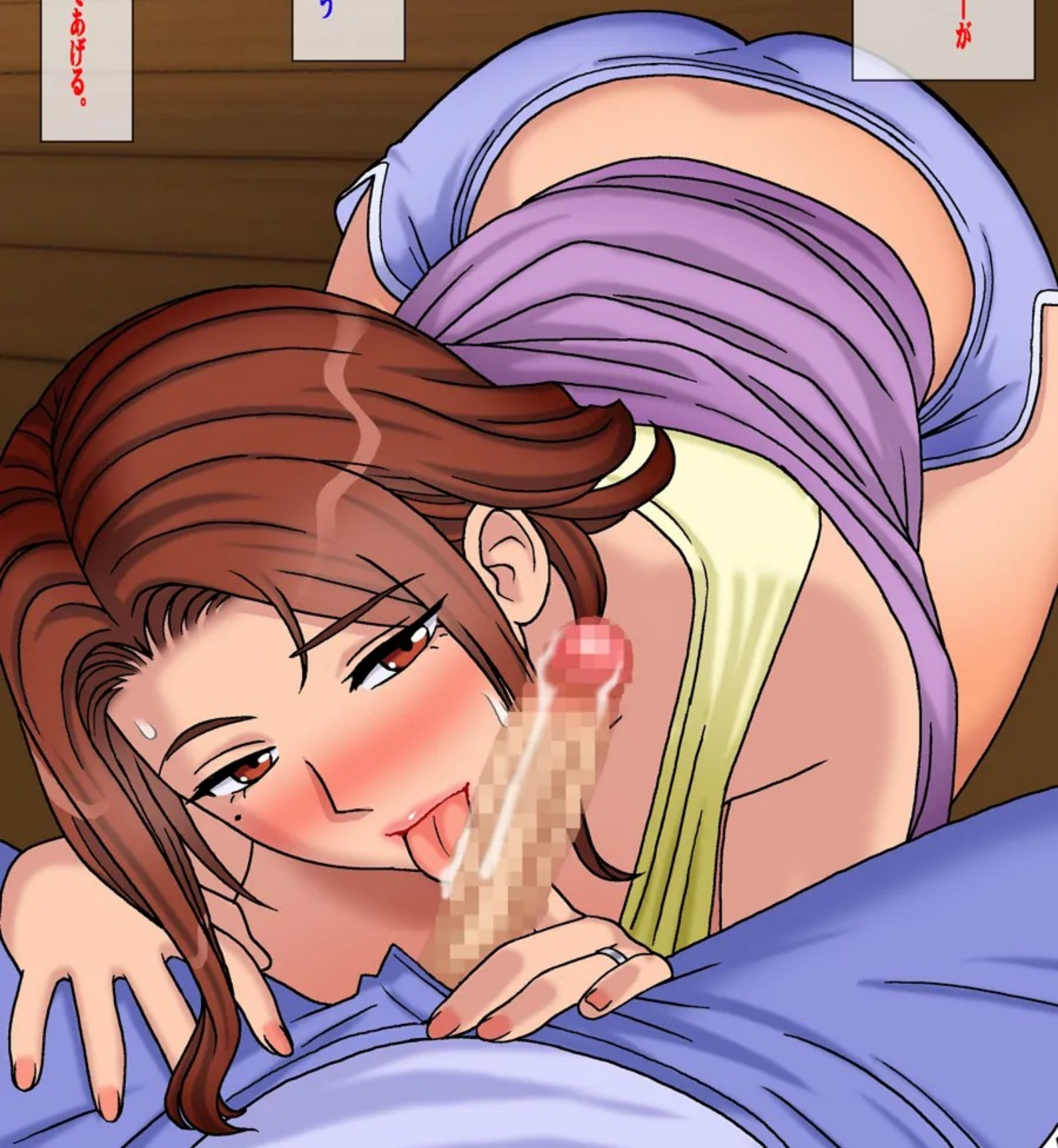


ふふふ、どう？
先っぽからカウパーが
溢れてるわよ♡
気持ちいい？

う、うん

もう…イキそう

いいわよ。
唇でイかせてあげる。



瑞希は射精寸前のペニスに
再び啜えると、トドメとばかりに
頭を激しく振った。

あッ

あ

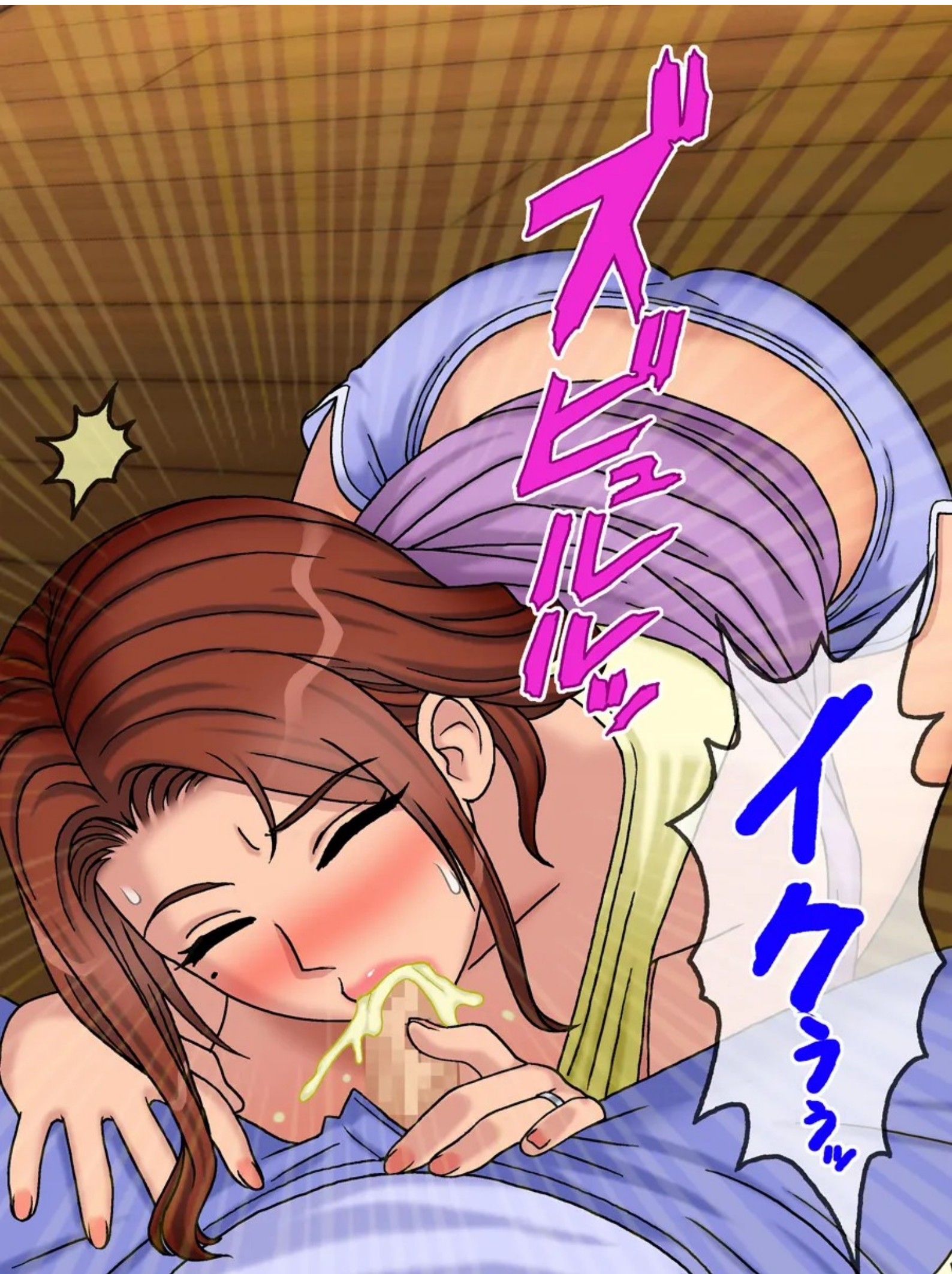
じゃぽん

あ

じゃぽん

ずぶん
ずぽん





あーっ
うーっ ぐんぐんぐんぐん

口の中はぐんぐんぐんぐん……



ああ……
やつぱり若い子の精液は
濃くてドロドロしてるわ。

にゅぽあ

どろお

瑞希は口を開いて
溜まった精液を見せつけた。



フェラチオなんて、
風俗みたいなプレイ、
コウちゃんの彼女は
してくれないでしょ？

人妻の本当のエロさ…
コウちゃんにたっぷり
味あわせてあげる♥

ちゅら

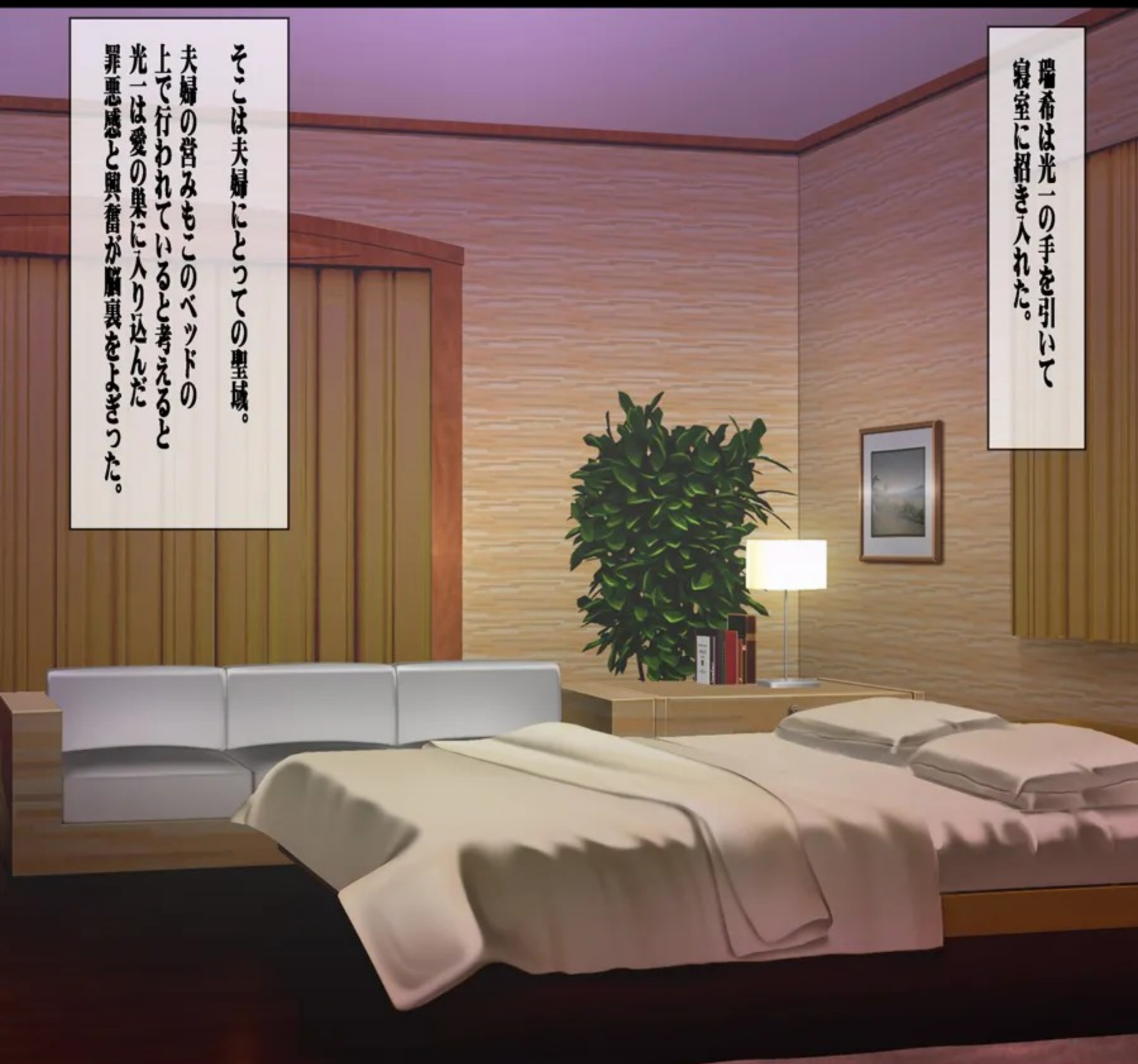
グニグニ



瑞希は光一の手を引いて
寢室に招き入れた。

そこは夫婦にとつての聖域。

夫婦の営みもこのベッドの上
で行われていると考えると
光一は愛の巢に入り込んだ
罪悪感と興奮が脳裏をよぎった。



ふふふ
夫婦の寝室に入ったら
今夜はコウちゃんか
私の旦那様よ。

たつぷりと
夫婦の営みで
愛し合いました♡

ずるるる..



うわあ……！
叔母さんのブラ、大きさがヤバイ！
巨乳だとは思ってたけど、
こんなに大きかったなんて！

それに……、
すつごく良い匂いがある。

ブラを引き抜いたときに
叔母さんの匂い濃くなった！



私のおっぱいの大きさと、
気に入ってくれた？

アンダー72センチの
Iカップよ。

男性好みの
たぶたぶ巨乳でしょ？



えっ？

おっぱいの匂い？

ブラジャーが気になる
ですって？

それって…
ブラジャーの内側を
見せて欲しいってこと？



ふううん
…仕方ないわねえ…

…



さっきのお酒を飲んでから
妙に体が汗ばむのよ。

おっぱいの汗がブラジャーに
沁み込んだのが匂ったのかしら

こんなのが見たいだなんて
コウちゃんも結構な変態くんね。



だが、光一が感じたのは
単なる汗臭ではなかった。

女性の肌特有の
鼻を擦る甘い香り、
雄を誘発する
女性フェロモンだった。



瑞希は履いているショートパンツと
パンティーを脱いだ。

光一を挑発するために
わざと光一に尻を突き出して。

ふふふ♡

あらあら、駄目よ。
女が脱ぐところをそんなに
見つめるものじゃないわ。



剥き出しになった瑞希の
大きな臀部を目の当たりにして
光一のペニスは大きく勃起。
だが、光一はその怒張肉茎を
隠すことはしなかった。

ふふふ、嬉しい。
オバサンの体でも
そこまで興奮して
くれるのね。

ギ
ギ



瑞希は仰向けにさせた光一の体に跨った。

勃起したペニスの上に
陰唇のクレヴァスを押しつけつつも
挿入はせずに光一を焦らした。

ふふふ…
コウちゃんつたら、
挿れさせて欲しくて、
可愛い表情しちゃって…♡



く
に
ゃ

く
に
ゃ

いいわよ。
それじゃあ
挿れるわね



あ……あれ？

叔母さん、コンドームは
着けなくていいの？

避妊とか……

……

く
ふ、
ふ、



コンドーム？
着けたい？

そんなものの着けない方が
気持ちいいわよ？

あ、あの…
でも…

そりやあまああ…
着けないと
相手が嫌がるから…

コウちゃんは
セックスするときは
避妊具着けるの？



へえー
コウちゃんはコンドーム無しの
セックスは初めてなのね？

じゃあ生オマンコの
快感を味あわせてあげる

ぬちゃ

あー……



生の感触を知っちゃったら
コンドーム着けたセックスなんて
満足できなくなっちゃうわよ。

避妊が気になるなら
射精する前にオチンチン
抜いちやえばいいのよ。

あーっ……あーっあーっ……

にゅるるる



根元まで全部入ったね。

オマンコの中でオチンチンが
ビクビクしてるけど、
挿れただけでイっちゃいそうに
なった？

ま、まだ
大丈夫だよ！

我慢強いのね、素敵だわ。
じゃあ、動くわよ。





コンドームを着けずに
セックスする
オマンコの中はどお？

膣の中で沸き出す愛液の感触や
亀頭に吸い付く様に絡む膣粘膜の
肉壁の一枚一枚の粘り気……

ぬちゃ

いよいよ

ギ
ニ
ッ

ギ
ニ
ッ

きもちいいー！

どんな極薄コンドームでも
得られなかった快感が光一のペニスに
絡みついていく。

ぐちゃ



腰を大きく動かしても
オチンチンが大きくて
オマンコの中から抜けないのね。

コウちゃんのオチンチンって、
私の身体と相性よさそう♥

ぽん

ギッ

ギッ

ぽん



ベニスの抽送が激しくなっていくと、
亀頭が陰の中で感觸の異なる部位を深く擦る。

あーっ
ビュンビュン

その都度に瑞希の身体はビクンと震え、
甘い声を漏らしてしまう。

そこは俗にいう「Gスポット」といわれている性感帯

光一はその僅かな反応を見逃さなかった。

ザグザグ
ザグザグ



あん♡

いいわよう

叔母さんの声が
エロくなつた……!

叔母さんの感じるところは
お腹の下辺りなのかな

ぐにゅ

むにゅん

ギ
ニ
ッ

ギ
ニ
ッ



うふふふ
若い子はがつつきが
すごいわね。

私を感じさせようとして
必死に腰を振って
私の弱い所を探してる...

そんなに求められると
気持ちに応えたくなくなっちゃう♡



体位を変えましょう。

今度は後ろから。

コウちゃん好みの好きなように
思いつきりオチンチンを
挿し込んでちょうだい！



光一は瑞希の下半身に抱きつくくと
愛液が垂れる膣口にペニスを
捻じ込み、腰を激しく動かした。

あつ……あんツ♥

ズズズ



この体位なら
叔母さんの弱い所を
擦れやすくなってる。

もしかすると
叔母さんをイカせることが
できるかもしれないっ！





この子う、狙ってる！
私の感じやすい所う…
知ってて、狙ってきてるう！

いつの間にか
そんなふうな感じてる。

グ
グ
グ

グ
グ
グ

オチンチンが

ぱん

オチンチンが
私の気持ち良い所、
集中して突いてくるっ！

腰の動かし方も
激しくて素敵っ♡

コウちゃん、
ウチの旦那よりも
セックスが上手かもっ！

ぱん

ゲチッ

ズチッ



あんっ♡
でも...

コウちゃんのオチンチン
良過ぎて、私の方が先に
イカされちゃいそうッ♡

ぱん

ぱん

ぱん

ぱん



叔母さんの表情に
余裕が消えてる……!

これって叔母さん、
イク寸前じゃないの？

見てみたい！
叔母さんのイキ顔！

んっ♡

んっ♡

あっ♡

グ
チ
ゅ

グ
チ
ゅ

グ
チ
ゅ



光一は腰の動きを更に激しくさせて、
強引に瑞希を絶頂させようとする。

ぱん

グチュ

ぱん

ぱん

グチュ

だが、光一の絶頂も我慢の限界。
射精を目前にして、鈴口からは
カウパー液が漏れ出している。



あゝ♡

あんっ
だめっ

あゝ♡

ぱん

ぱん

ぱん

ゲ
リ
ュ
ッ

ズ
ブ
ズ
ブ
ッ

本気の声が出ちゃうっ



叔母さん

僕…、
もう出そうっ…！

いいわう
私も…もう…っ♡

ぱんっ

ぱん

ゲチッ

ズグ

ぱん





ほ、本物の潮吹き…
初めて見た！

僕が叔母さんに
潮を吹かせたんだ……！

はぁー

はぁー

はぁ

ぴんぴん



ふふふ
コウちゃんに
イカされちゃった……♡

甥っ子にこんな
恥ずかしい女の部分を
みせちゃうなんて……
これって、さっきの
お酒のせいなのかしら





瑞希は乳房に付着した精液を
指で掬い取ると、
そのまま舌に絡ませた。

あんなに興奮してたのに、
膣の外で射精する自罰心は
ちゃんと持ってくれてたのね。

活きが良くて
女を妊娠させる気満々の
こんな精子を注がれてたら
危なかったわ♥

ふふふ♥

ぴちゃ

ほら、陰の穴間から
見えるでしょ？
子宮が下りてきてるの。

赤ちゃんを作り易くするために
子宮がオチンチンを迎えに来てるのよ♡

今、コウちゃんにイカされたおかげで
体が発情したせいよ。

くぱぁ♡♡



トロォー

こんな状態の女を抱くのが
スリルあるでしょ♥

きつと、さっきのセックスよりも
気持ちいいわよ。



いいわよ。
そのままオチンチンを挿し込んで。

人妻を妊娠させてしまいかもって
ギリギリの快楽を楽しみましょう♡

ぬ
いっ



光一は再び膣の中で
ペニスを抽送させた。

ぱんっ

ぱんっ

たぶん

ズグッ

たぶん

あ
はあ
あ

あう あんう

もつと強くっ…
もつと深く突いてええっ!

ぱん

ズチュ

いいわあう!

コウちゃんの
オチンチン最高よおっ♥

ズチュ

ぱん

あゝ
あゝ♥

あゝ
あゝ♥



目の前で叔母さんの
巨乳が弾みまくるっ！

すっげえエロい！

もつと腰を大きく動かして
乳揺らしを激しくさせたいつ

ぽん

ぶるん

ぽん

ぶるん



ゴリッ

ゲリッ

ぱん

ぱん

先っぽに当たってるのつて
子宮口の入口だよな…

本当に子宮つて
降りてくるんだ

叔母さん、本気で
赤ちやん欲しがってるのかな



子宮を突かれてると…

お腹の中が蕩けて
頭の中が真っ白になっていく…

ぱん
げ
ぢゅ

え
げ

駄目だ、駄目だ
勢いに負けずに
射精は外に！

危なくなったら
チンポを抜く！

ぱん

ぱん



その刹那、
瑞希は光一の体腕を伸ばし、
グイッと抱き寄せた。

絶頂を迎える時の
瑞希の癖なのだろう。

うぶっ！
顔におっぱいが……！

ぐいっ

あっ♡
あっ♡





れろ

れろ

ああんつ
今、おっぱいは敏感になつてるの。

乳首をそんなにエツチに
ペロペロされたらイッちやうつ♡

ぱん

ぱん

ズ
グ
グ



ぽん

ぽん

ぽん

ちやば

ちやうちやうち

んあ

おっぱい吸うちやだめつ
吸われた刺激が乳腺に響いて
おっぱいが疼くのっ!

子宮が火照る…

これって…
排卵するときの
感覚とそっくり…

ぱん、

排卵する周期は
まだ先なのに…。

この子のセックスが情熱的過ぎて
私の身体…夫相手の子作りと
勘違いしてるんだわ…♡

あっ

あっ

ぱん、

ぱん、



お、叔母さんっ

はぁ♡

そろそろイキそうっ！

はぁ♡

射精……きゅんっ！

あ

あ♡

ぱん

う、うんっ！

もう我慢できないッ！

チンポを抜くから
腕を離してっ！

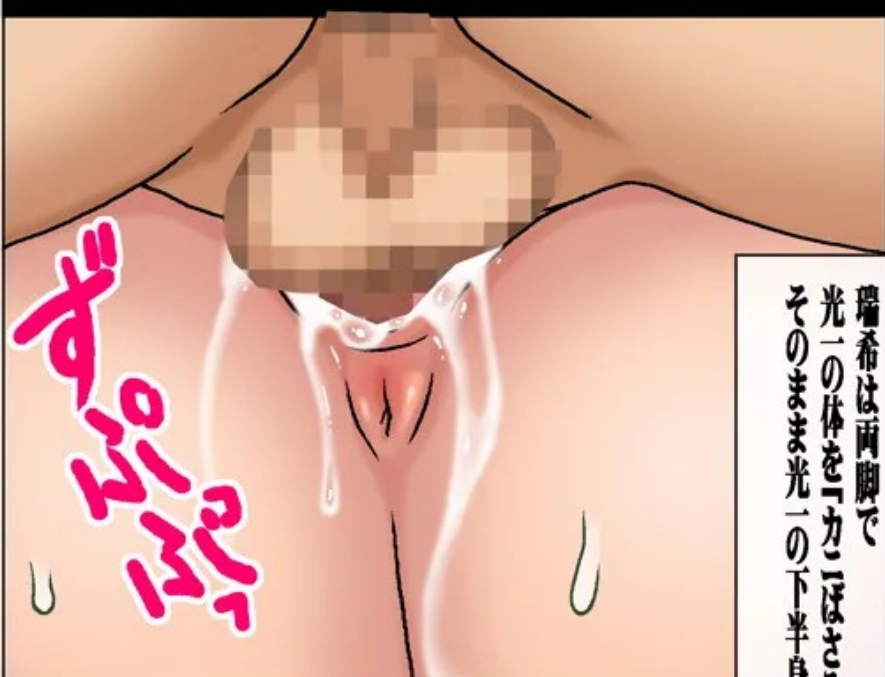
ぱん

ぱん

ぱん



瑞希は両脚で
光一の体を「カ」ばさみ「する」と
そのまま光一の下半身を引き寄せた。



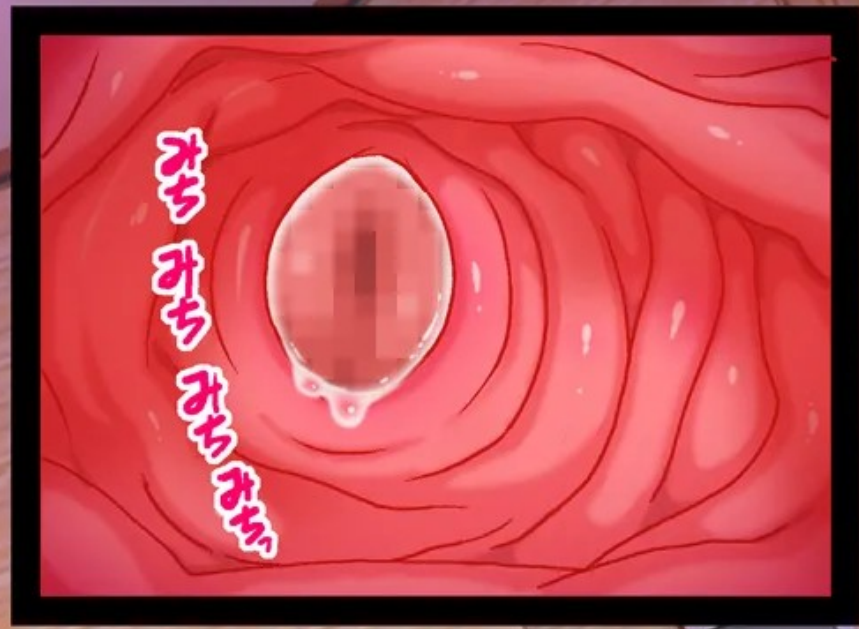
陰外射精するために肉茎の半分が
抜けかけていたが、再び根元まで
引き戻されてしまった。

えっ？

ちよつ…、
叔母さん？

ガッ
＝
ッ





瑞希は両脚の力を強め、
亀頭は子宮口の穴を
強引に押し広げていった。

あつ……ああああ
叔母さん、叔母さんっ！

もう無理っ！
出すよっ

ぱん
ぱん

あっ

あつ……イクっ

もう……イクっ♡

あん



ぱん





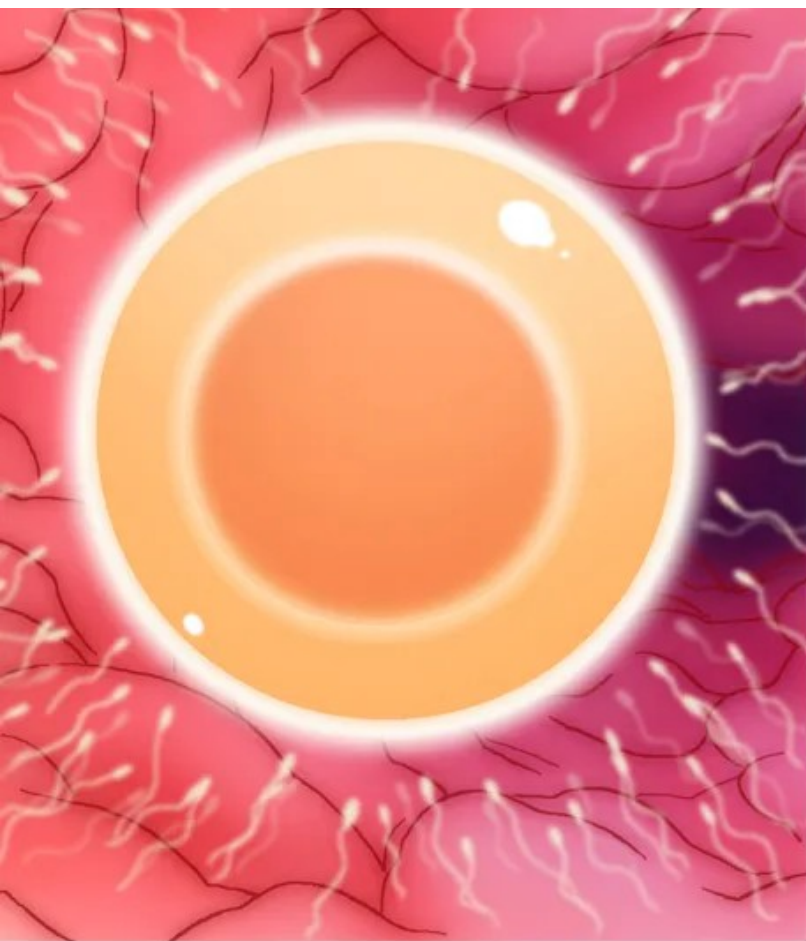
叔母さん、ごめん。
中に出しちゃった…

いいわよ、気にしないで。
私がコウちゃんに
抱きついちゃったせいだもんね。

で、で、で…

ふふふ、心配ないわ。
危険日はまだ先なの。
妊娠はしないわ。





ふふふ…
なんてね。

コウちゃんの子種、
しつかりと貰っちゃった♡

今頃はコウちゃんの子種が
私の卵子に遺伝子を遺伝子を
注入してくれてるわね。

ほら、見て

こんなに沢山の精液が
オマンコの中に注ぎ込まれてたの。

それだけ私のオマンコが
気持ち良かったのね。
嬉しいわ♥

ドォォッ

ゴォォッ



これが…
僕が射精した精液？

オナニーした時に出る
量よりも遙かに多い…！

それにこの粘つきとトロみ…
まるでコールドクリームみたいだ

コウちゃんの雄の証よ。

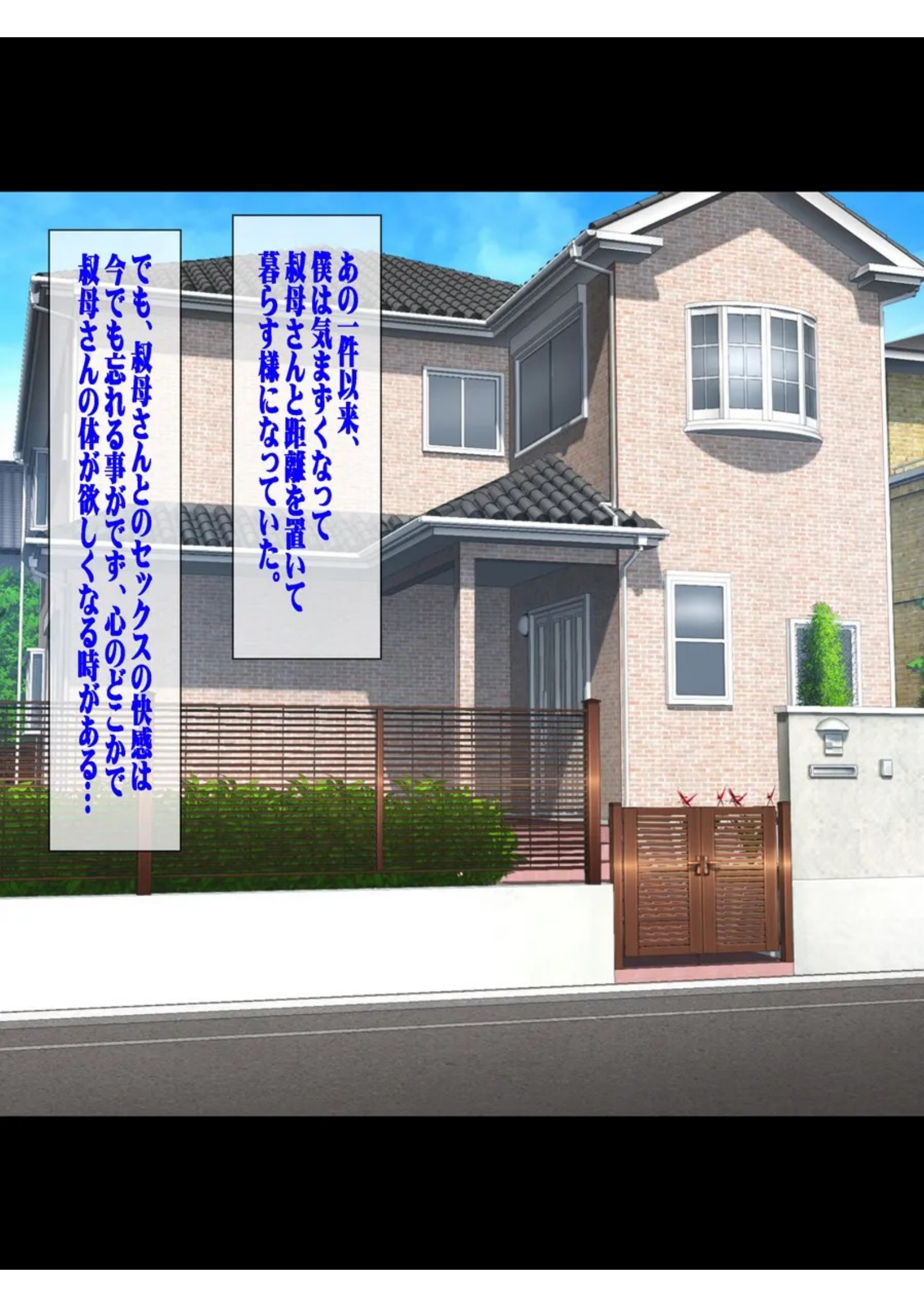




オナニーやコンドームを付けたときに出しちゃう
「女を妊娠させる気のない」精液とは違うの。

男の人が本気で相手の女性を
妊娠させる気になった時だけ
こんなに濃厚な精液を
射精することが出来るのよ

だからこれはコウちゃんの雄の
立派さを示す証明なの。



あの一件以来、
僕は気ますくなつて
叔母さんと距離を置いて
暮らす様になつていた。

でも、叔母さんとのセックスの快感は
今でも忘れる事がでず、心のどこかで
叔母さんの体が欲しくなる時がある……

数ヶ月後

光一は母親から頼まれた用事の為に
瑞希の家に訪れることになった。



いらつしやい、コウちゃん
久しぶりね。

叔母さんに子供が出来たつて
母さんから聞いたよー。

すいぶんお腹も
大きくなつてたんだね。



ええ。
さつき、検査から
帰って来たの

叔父さんも大喜びしてたよ。
念願の子供が出来たって。

ふふっ
そうね。



んー…
でも…

コウちゃんには
本当のことを
言った方がいいかな。

えっ？



お腹の子、
ウチの人のじゃないの。

え？ ええ？

だって、彼の精液には
精子が無いから。

彼自身はその事は
知らないけどね。



えつと…

わざわざそれを
僕に話したって事は…

そうよお

コウちゃんが
お腹の子の父親よ♥



甥っ子の子供を身籠ったことを
あつけらかんと語る瑞希に
度肝を抜かれる光一。

まあ、子供を作る方法は
他にも色々あったんだろうけど…

私はコウちゃんの赤ちゃんが欲しくて
貴方に種付けして貰ったの。



ほら、このお腹の中で
コウちゃんのを
育ててるの。

触って確かめてみて？



この中に僕の子供が…

ママのお腹の中をよく蹴る
やんちゃな子よ。

姉さん(光一の母)のお腹の中でも
コウちゃんはこの様な感じだったのかしら



あら…
コウちゃんのオチンチン、
勃起しちやってる？

私の足に熱い塊が
押し付けられてるわよ。

私の妊娠したお腹を触ってて
欲情しちやっတာ？

あ！



だって、叔母さんの体、
すっごくエロい匂いがするんだもん。

こんなの我慢できるわけないじゃん

ふふふ。
気付いちやった？

コウちゃんとセックス
してから半年以上も
経ってるから…

私もコウちゃんの体が
忘れられなかったの。



それに…
コウちゃん気付いた匂いつて
甘い匂いも混じってたでしょ？

それは多分これね。

瑞希は背中にも手を回すと
ブラジャーのホックを外した。



ブラジャーを脱ぎ取った瑞希は
カップの裏側を光一に見せた。
カップは母乳が染みて濡れていて
濃厚なミルク臭がしている。

こういうの好きでしょ？
最近、母乳が出るようになったの。



自分の母乳で濡れた下着を
見せるって、結構恥ずかしいのね。

実はこの事、ウチの人は
まだ知らないのよ。

旦那や赤ちゃんよりも先に
おっぱい飲ませてるわ♥



その代わり、コウちゃんの
オチンチンミルクも飲ませてね。

今なら安定期に入ってるから
オマンコも使えるの。

ほ、本当に？

ええ。
寝室でたっぷり
愛し合いましょ♡





ああっ
いいわあッ

オマンコの深いところまで
オチンチンがグサグサきてるっ

ぽん

お、叔母さん
ごめんっ……!

気持ち良過ぎて、
腰の動かし方を加減できないっ

ズイッ

ゲチッ

ぽん
ぽん

ああっ♡

ああ♡

ああっ♡

ふふ…
でも、子宮への直突きは
避けてくれるのね。

パパの自覚が
芽生えてるのかしら

ブルン

タン

やっぱりコウちゃんの赤ちゃんを
妊娠してよかったわ♥

ぽん
ズブ

ズブ

ぽん

その刹那、瑞希の乳首から
乳白色の体液が溢れ始めた。

あつ……！
これって……！

ぱん

ぱん

あはっ♡
母乳が出てきた。

出産前だから母乳の出が
安定しないのよ。



大きな乳房が揺れる度に
母乳がしぶき、光一の欲情を
瞬く間に煽っていく。



叔母さん…
僕、叔母さんのミルクが
野みたいつ！

いいわよ。
コウちゃんの子種でこの母乳は
出てくる様になったんだもん。

これはコウちゃんだけのものよ。

母乳を待ちわびた光一は
瑞希の乳房にむしやぶりついた。

瑞希の母乳は
止めどもなく溢れている。

ぶちゅっ

ジュルル...

ああんっ

授乳の為の乳首の
吸い方など知らずとも、
しゃぶりついてしまえば、
勝手に母乳が
口の中に流れ込んでくる。



ぽん

叔母さんのミルク、
おいしいっ！

ちゅば

ちゅら

ぽん

いいわよっ
おっぱい吸われてるだけで
乳腺が気持ちいいっ♡

まだ、赤ちゃんの方なんて
考えなくていいのっ。
思いつきり吸いだしてえっ

光一は存分に母乳を堪能すると、
乳房から唇を離し、ペニスの抽送に集中した。

あああんっ♡

さつきよりもオチンチンの
動きが激しくなった！

ガレレレッ

ガレレレッ

ズチュッ

ズチュッ

きてえっ！
ミルクで元気になった
オチンチンで
私をイかせてっ！

うっ……！
ほ、僕……もうイクよう！

このおまんこでっ……

出してっ！

オマンコにコウちゃんのみ
ミルクを飲ませてっ！

あッ
あッ
あッ

ぱん

ぱん

私もっ
もうイクっ♡

ぱん

ぱん







はぁ

はぁ♡

はぁ...♡

おん

おん

ぐん

ぐん

ふうう...
気持ちよかったよ
叔母さん...♡

あいかわらず
凄い量の精液ね…

臨月間近の妊婦を
妊娠させるつもり？

コウちゃんの精液だったら
そんなことも出来ちゃいそう♥

グプグプ

ゴボッ



お腹の子が産まれたら…
二人目が欲しくなるかも…

その時はまたコウちゃんが
種付けしてくれる？

えっ？
僕がまたやっつていいの？



ええ、もちろんよ。

コウちゃんそっくりな赤ちゃんだったたら
二人目でも三人目でも産みたいわ。

そして数ヶ月後
瑞希は二人目の
子供を身籠った

THE END



ひゅっ…
ひゅっひゅっ…

はぁ…

はぁ…

は…は…は…

はい、西田さん
そろそろ赤ちゃんの頭が
見えてきますよ。

こちらの掛け声に合わせて
リズム良くヒッヒッフー
して下さいね。

ピクン

ピクン



あつ...あああつ！
はうううううう

もうすぐっ...
コウちゃんの赤ちゃんが
産まれてきてくれるっ

普段は閉じている子宮口を
強引に割り開き、
胎児産口に降りていく。

分娩の痛みは正にこの子宮口を
こじ開ける時の苦痛なのだ。

ぐぽあ

ズン

あうっ

待ちに待っていた
コウちゃんの赤ちゃん...
悲鳴を上げてばかりじゃ
勿体ないわっ！

腔内から押し出される胎児に
産口は裏側から肉穴を
押し広げていった。



いいですよっ
もう少しですっ！

慌てずゆっくりと
お腹に力を込めてっ。



子宮に残った胎盤は
臍帯を引っ張ると
スルリと膣口から
滑り落ちていった。

医師は産まれたばかりの
赤ん坊の処置を施すと
胎盤の取り出しに
取り掛かった。



おめでとうございます。
元気な男の子ですよ。

ああ……！
私の赤ちゃん！

顔つきが「パパ」そっくりなのね。
とっても嬉しい♡

THE END











